

## 会 議 録

会議の名称	令和2年度(2020年度)第2回 人権文化のまちづくりをすすめる協議会		
開催日時	令和3年(2021年)1月25日(月) 午後7時00分～午後8時30分		
開催場所	豊中市役所 第一庁舎 2階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	人権政策課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由	—		
出席者	委員	石元会長、石黒委員、小牧委員、玉置委員、野崎委員、濱元委員、林委員、三田委員、山脇委員、若柳委員、水谷委員、山下委員	
	事務局その他	【人権政策課】山本人権文化政策監、堀山参事兼人権政策課長、佐津川館長、澤坂主幹、片岡補佐、阪口係長、吉川主査、五十川主事、野邊 【学校教育課】金子主幹	
議題	1、人権啓発パネルについて 2、市民意識調査結果をふまえた今後の市民啓発について 3、コロナ禍における市民啓発について 4、多文化共生指針の取組み状況について 5、その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 開会

### 案件1. 人権啓発パネルについて

- ・事務局から、資料4について説明した。
  - ・前回の協議会で出た意見をふまえて、ホームページ(案)を作成し啓発手法等について意見を求めた。

○委員 パネルを一枚ずつ紹介しているページは、最初にパネルを表示し、下に説明文があるとよいのではないか。トップページについては、文字が多く見づらいと思うので、サムネイルのみでよいと思う。豊中市のホームページのトップページからパネルのページまで階層がかなりある。人権文化のまちづくりのすぐ下の階層でパネルが表示されるよう階層を見直してはどうか。

●事務局 ご指摘いただいたご意見をふまえ、階層の構想も含め見直しをする。

○委員 私もパネルが最初に表示される案が一番良い。トップページの文字が多すぎるとネット上では読みにくい。

○委員 私も同じ意見でトップページは説明文を無くして、サムネイルのみで良いと思う。

○会長 案2の最初にパネルを表示し、下に説明があるのがいいという委員の意見が多数出たので、それをふまえホームページの作成を進めていただきたい。

### 案件2. 市民意識調査結果をふまえた今後の市民啓発について

- ・事務局から資料5-1、5-2について説明した。

○委員 豊中市に限ったことではないが、人権侵害を市役所に相談する割合は低い。敷居が高く、上から目線と言われるようなイメージがあるようだ。参考資料3には、いろいろな相談窓口があり、何々については窓口に来てくださいと書いてあるが、困っている当事者がこれを見て窓口に行こうというところまでたどり着かないと思う。相談したらこういう対応をしてもらえるとという解決までのチャート図のようなものを示したり、こういう相談があってこう対応したなどの事例があればいいと思う。

○委員 悩んでいる人のほとんどが、「黙って我慢している」ということがアンケート結果に出ているが、黙って何も言えない人が、言える状況を作っていくことがとても大事。電話だけでなくメールで相談ができるとういのではないか。差別や偏見を受けている当事者は声を出しにくいいため、周りの人が気付いたときも相談しやすいようにするとよい。

○委員 「参加体験型学習を組み入れた研修手法の組み立て」とあるが、パネルを見るだけ、話を聞くだけではなかなか自分ごととして考えられず、主体的に捉えられない。市内部の研修だけでなく、学校や市民団体が研修に使えるようなパッケージを作って、ホームページにも掲載してはどうか。

●事務局 現状は職員研修や市民団体、企業への出前講座の際に、講義だけでなくグループワークのような題材を提供することもあるが、パッケージとして出せるほどの材料がない。こういった組み立てをしたらよいのか知恵がたりない部分があるので、意識調査結果の課題をふまえ、どのようなテーマでどのような投げかけをするのがよいかなどご意見をいただきたい。

○委員 豊中市では、いろいろな団体の交流もあるので、憲法月間や平和月間事業のときに、交流会や発表会をしてみてもどうか。宝塚市では、昨年8月に広島の前市長を招き講演会を行ったことは、市民にインパクトを与えたと聞いた。核兵器禁止条約も最近発効したので、そういったことをふまえて今年度ぜひ平和月間事業でやっていただきたい。

○委員 大阪市では、同和問題をテーマにしたDVDを作って中学、高校、大学に貸し出しが可能となっている。内容としては、学習という感じではなく、普通の対話の中で自分の恋人のルーツを知ってしまうというもの。DVD作成はお金がかかるが、話を聞かない学生も結構見入っている。また、自殺問題、自殺予防の話は学校でやりにくいとは思いますが、大阪市こころの健康センターなどが、ゲートキーパー研修という専門的な知識ではなく、何かあった時に身近で寄り添えるような対応の研修を行っている。LINEで実は私の親は自殺したんだと言われた後にLINEをどう返信するのかなど結構真剣に悩むような内容。自殺予防のノウハウが使えるような気がする。体験型というのは、難しそうに見えるが中学生でも小学生でもやり方によってはもしかしたら乗ってくれるかもしれない。小中高の先生方は同和問題をどう伝えるのか悩んでいる人が多いと思う。

○委員 意識調査結果に関する講演会の感想として、人権教育の成果や意義のデータから、改めて頑張ろうというポジティブな感想を先生たちからいくつかいただいた。同和問題に関してネット上の差別が多くなっている。ネットの情報について、フェイクや偏見、差別的なものや気付けるような人権感覚を学校教育の中で育てる必要があると思った。人権教

育や啓発はワクチンのような役割をもっており、その効果の期間は永続するものではないので、学校教育の中で学んだ後に継続して生涯教育の場で学び話し合う機会が必要だと思う。

参加型に関しては、一昨年市が行った武田緑さんの研修ではグループワークをとおして人権問題について話し合い、気づき、交流していた。今後もこのような講座を継続して取り組んでどうか。

○会長 委員からの意見や事例紹介をふまえてこれからの人権教育、啓発を事務局で組み立てていただきたい。

### **案件3. コロナ禍における市民啓発について**

・事務局から、資料6について説明した。

○委員 ポスターは市として偏見をなくしていきたいという強い姿勢が伝わってくるが、感染したらどうしよう等の不安を抱えている人も多くいる中で、ネガティブなメッセージが多い気がする。気持ちの方向性を変えるようなポジティブな呼びかけがあったらいいと思う。例えば、医療従事者にはまずエールを、感染者の方には心配といたわりの言葉を等、差別や偏見にとらわれて自己防衛的になってしまう自分をはっとさせるメッセージにもなると思う。

○委員 外国の方が見たときのために、ルビを打ったり、中国語を入れるとよいのではないか。

○会長 他に気づいた点があれば、委員から事務局に伝えていただきたい。

### **案件4. 多文化共生指針の取組み状況について**

・事務局から、資料7-1、7-2、7-3、参考2により説明した。

○委員 3番目にベトナム人が多い状況になっているが、労働ビザを持つ人か技能実習生か留学生かどういった人たちが来ているかによって困りごとの内容も変わってくると思う。

また、相談内容を見ると、市役所では社会保険や年金、国際交流センターでは婚姻関係や雇用労働と内容が大きく違う。相談のすみ分けは、どうなっているのか。

●事務局 ほとんどのベトナム人は技能実習生として労働のために日本に来ている。

市役所と国際交流センターの相談のすみ分けは、市役所に来られる方は、何らかの手続きをするとの目的をもって来庁する相談者が多い。国際交流センターは、生活全般の相談

を受けているため、婚姻関係などのプライベートな相談が多い。件数は、延べ件数で計算しているため、継続して相談するような内容のものが増えている。

○委員 多くの外国人が来ていることやこれだけの支援をしていることに驚いた。市民も理解していく必要があると感じた。

○委員 進捗状況の成果と課題について、成果は、具体的に書いてあるが、課題はあまり具体的ではない。改善していくということは書いてあるが、何が課題かが書かれていない。次に向かっていくときに課題はどこにあるのか、少しずつPDCAサイクルを回していきながら、Cのチェックを明確にすることが大事だと思う。時々で優先順位も変わるし、不足内容や提供方法等の課題が分かるように示すとよいと思う。

○委員 日本語教室については、防災とセットにするとすごく効果的だと思う。また、技能実習生を受け入れている事業者との連携や役割分担はどうなっているか。

●事務局 日本語教室と防災をセットにした事業は行ったことはなく、参考に検討していきたい。現在、日本語教室には個人からの申し込みによって参加いただいている。行政としてもどの事業者にもどの国の外国人が働いているのかといった情報が知りたいので、今後事業者との連携を築いていく必要があると考えている。

○会長 資料7-1について、事業名がいろいろな国をシリーズ化しているのか国を固定して実施しているのか不確かなものや、実施日の記載がないものがあるので統一いただきたい。次年度は委員からの意見をふまえて対応いただきたい。

## 案件5. その他

- ・次回の会議予定時期について事務局から説明した。

## 閉会